

人口動態

(10月1日現在)

世帯数	22461	(+ 14)
総人口	105,688	(+ 1,70)
男	50,297	(+ 87)
女	55,391	(+ 83)
出生	208件	死亡 66件
転入	320	転出 292
婚姻	22	離婚 8



市政だより

昭和26年7月6日第三種郵便物認可

206号

昭和40年11月1日発行
 発行所 会津若松市
 発行人 竹田正夫
 編集 広報係
 定価 5円

毎月1日・15日発行



広 報 板

- 2日～7日 諸流いけ花展・公民館
- 4日～13日 パネル展示会・図書館
- 5日 18時 吟詠と能楽の夕・市民会館
- 6日 9時 会津駅伝競走
- 夕 18時 市民音楽祭・市民会館
- 7日 9時 優良子供会、指導者顕彰式・市民会館
- 夕 18時 民謡民舞大会・市民会館
- 9日・10日 第6回農業祭・市民会館・公民館
- 12日 13時 第8回読書感想発表会・公民館
- 13日 9時 全会津吹奏楽祭・市民会館
- 夕 18時 グリー赤べこ第二回定期発表会・市民会館
- 17日 9時 市戦没者追悼式・市民会館

門田町北青木の芳賀太さんは、戦争中の昭和十八年からリンゴ栽培をはじめた。山ぞいの水田にならない畑五士アールを、リンゴ園にしたのである。

当時市内にはリンゴ栽培の技術者がおらず、毎月福島市までかけて研修に努めた。その努力が実を結び、今では祝い、紅玉、デリシャス系統、陸奥、インド、国光などが枝もたわわに実っている。

収穫高は約十トン、畑で稲作と同じくらいの収入を得ていることは、山間部の今後の農業経営に教えるところが大きい。

会津地方は気候も土壌もリンゴ栽培に適している。門田地区だけでもかなり普及した。現金収入の道を稲作一本に頼るのではなく、畑地を利用しての果樹栽培などは明日の農業経営の一つの姿ともいえる。

市政写真 コンクール

■テーマ 1部・市政写真—昭和40年度市政全般の出来事
 2部・家庭写真—風景とか行事など撮影対象が市内で今年度中に写したもの ■応募規定 ①市内居住者に限る ②作品は黑白キャビネ版、未発表作品 ③1人何点でも応募できる ■しめ切り 1月15日 ■送り先 市役所広報係

衛生組合し尿処理場の起工式

会津若松市が中心で磐梯町、高田町、本郷町、河東村、北会津村、湯川村、新鶴村でし尿処理場を建設することになり、22日に市の衛生プラント隣で起工式が行なわれました。1日14万3千人分のし尿が処理できるマンモス処理場で完成は41年12月の予定です。

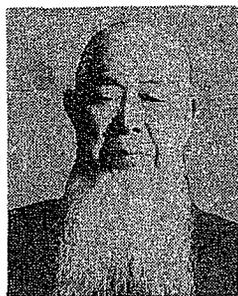


人気よぶカキ娘

カスリの着物に白だすきをかけた「カキ娘」が10月20日から会津若松駅に現われました。これは会津特産のみしらず柿を観光客に紹介しようということから初めたもので、お客から大好評。初日1日の売上げは1万5千円にも上りました。

鈴木さんに決定

ことしの市文化功労者



「田舎ようか」と「おけいまんじゅう」の美演などです。東京の知人などにこのことを知らせて、大いに会津の観光と物産を宣伝してください。

年末融資を受け

中小企業者を対象とする年末融資の申し込みは十一月一日から十一月二十日まで、市内中町、県信用保証協会若松支所(電話2-3412、4196)で受け付けます。

くわしくは市商工企業部商工課へお問合せください。

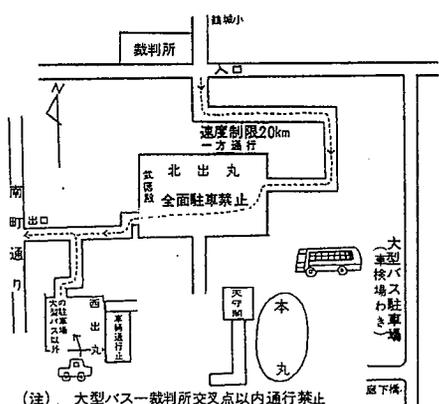
ことしの市文化功労者に市内一箕町大字上番藤、鈴木清美さん(七十八歳)が選ばれました。鈴木さんは力神道整形外科院長のかたわら、会津吟詠会長(会員百五十名)、会津和歌会長として、ともに二十数年間、会員の育成に努めるとともに吟詠、和歌の朗詠を通じて健康の増進をはかりました。また吟詠と和歌の普及によって会津の文化を向上させたことに対して、今回晴れの文化功労者に選ばれました。

会津の旅とうま

東京で五日から

「会津の旅とうまのもの会」が十一月五日から十七日まで東京・渋谷の東横デパート西館地階食品売場で市と会津若松物産協会の主催で開催されます。内容は会津の観光案内、名産品の展示と即売、会津銘酒の試飲、

本丸には車で入れません



連日多くの人が入場者でにぎわう天守閣とともに、鶴ヶ城、ほたいへん混雑しています。市では十月十日から自転車をはじめ車両全部の本丸帯郭への乗り入れを禁止しました。市民の、観光客のより快適なこの場所とするために今後はお城への車の乗り入れ禁止にご協力ください。

(注) 大型バス一裁判所交差点以内通行禁止
大型バス以外の車輛全部一南町通りを出口とする一方通行

お城の入園料をとる

という話があるが……

最近世間につわさされる鶴ヶ城跡について質問します。天守閣が立派に復元されて、本堂に誇らしく思っています。市では将来本丸を整備するために入園料を取るとか、聞いております。市民の公園であるのに、市民が本丸に入るとき入園料を払わなければならないということはないでしょうか。これは不当であるように思われるが責任ある説明を願いたい。(市民)

答
質問のとおり現在市内にそのした問題がうわさされておりますが、結論的には入園料を取るかどうかは決まっておりません。しかし、他の城跡(各市屋城、熊本城、姫路城など)が入園料を取って、よりきれいな公園を作っていることはご存じのとおりです。鶴ヶ城も整備を急がなければならぬ点が多くあります。現在本市を訪れる観光客は、県の観光客流動調査によりますと年間百四十万人と推定されています。また九月十八日から十月十七日まで天守閣に修繕した人数は約十七万人で、このほか城跡を訪れても修繕した人もおられます。年間約七十万人くらいが城跡を訪れることが予想されます。仮にこの七十万人から一人十円の入園料を徴収するとなれば、年間千四百

全整備が終わってから本丸の入園料を徴収し、さらに城跡の整備と美化に努力をしていくのが適当であると考えられます。こうした現状を考えると、この問題が話題になることもあり得ると思えます。(天守閣管理事務所)

- ▷ 収穫感謝のついで 表彰式典(優良農林業経営者、家畜共進会農産物品評会入賞者) NHK素人のど自慢日本一を招待のアトラクション
11月9日 13時・市民会館
- ▷ 農産物品評会 出品物(葉菜、根菜、穀類、苗木など)
11月9日・10日 9時~17時・公民館3、4階
- ▷ 展示品 肥料、飼料、盆栽、農産物加工品など
11月9日・10日 9時~17時・公民館3、4階
- ▷ 即売会 即売品(葉菜、根菜、その他農産物など)
11月9日・10日 9時~17時・公民館3、4階

第6回 農業祭

